

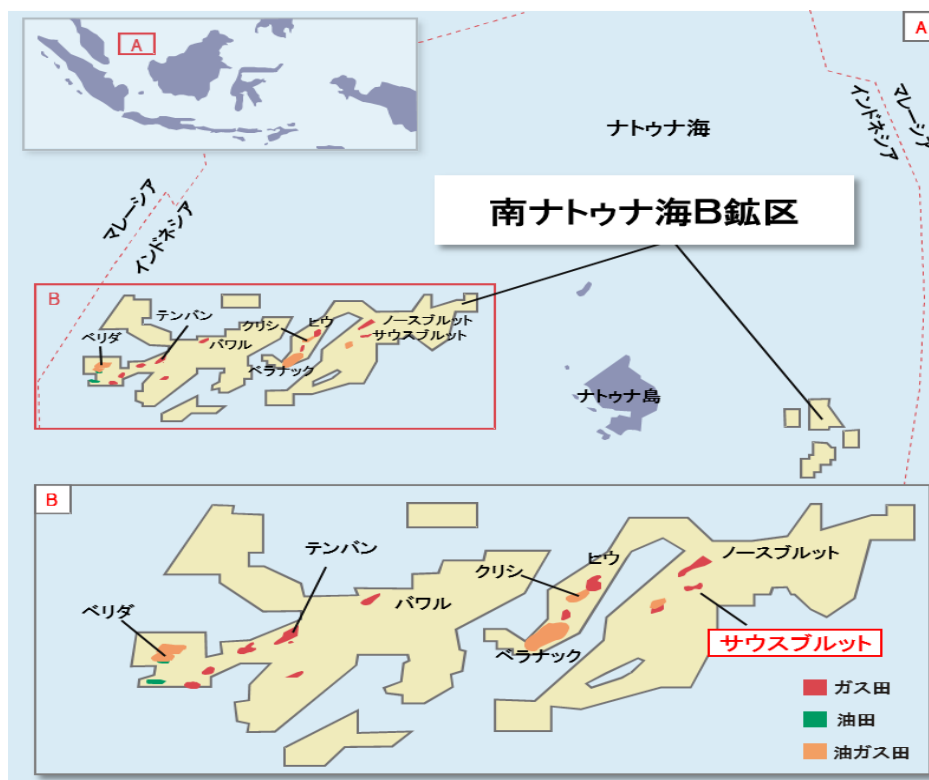
平成 26 年 5 月 13 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 橘高 公久
電話番号 03-5572-0233

インドネシア共和国 南ナトゥナ海 B 鉱区 サウスブルットガス田の生産開始について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、子会社ナトゥナ石油株式会社を通じて、インドネシア共和国 南ナトゥナ海 B 鉱区（以下、本鉱区）において、オペレーターのコノフィリップス社、パートナーのシェブロン社とともに石油・天然ガスの開発・生産作業を実施しておりますが、今年 4 月 26 日より本鉱区内に位置するサウスブルットガス田から天然ガスの生産を開始しましたので、お知らせいたします。



南ナトゥナ海 B 鉱区位置図

本鉱区は、インドネシアの首都ジャカルタから北方約 1,200 キロのナトゥナ海に位置し、

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION

本鉱区内には、このサウスブルットガス田のほか、ベリダ油田、ベラナック油ガス田、テンバンガス田、ヒウガス田、クリシ油ガス田、ノースブルットガス田、バワルガス田が存在し、原油、天然ガスおよびLPGが生産されています。

サウスブルットガス田は、ノースブルットガス田の南約15キロ、水深約100メートルに位置し、2011年10月の開発移行決定を経て2012年4月より開発作業を進めてきたガス田です。

サウスブルットガス田の天然ガス生産能力として、日量平均約120百万立方フィート（原油換算：約2万バレル相当）が見込まれており、生産された天然ガスは、ベラナック油ガス田、バワルガス田およびテンバンガス田から生産された天然ガスとともに既存の国際パイプラインを通じてシンガポールに供給され、本鉱区における天然ガス販売数量の長期確保に寄与します。また、このガス田から生産されるLPGは、インドネシア国内向けに供給されます。

当社は、事業活動の中核的地域であるインドネシアで、東カリマンタン・マハカム沖鉱区における50%の参加権益を保有し、原油・天然ガスの開発・生産事業を実施しているほか、アラフラ海域沖合マセラ鉱区ではオペレーターとしてFLNG方式によるアバディガス田の開発準備作業を推進するなど、合計12鉱区にて探鉱・開発・生産事業を展開しております。当社は今後も、インドネシアにおいて、積極的に事業を展開してまいります。

当社は、INPEX 中長期ビジョンに沿って上流事業の持続的拡大に向けて取り組んでおり、このたびのサウスブルットガス田からの天然ガスの生産はこれに資するものです。

本件による当社連結業績への影響は軽微です。

<南ナトゥナ海 B 鉱区の概要>

鉱区：	南ナトゥナ海 B 鉱区	
鉱区面積：	11,154.5 平方キロメートル	
水深	70-100 メートル	
鉱区位置：	インドネシア ジャカルタから北方約 1200 キロ	
権益比率	当社：	35%
	コノコフィリップス社（オペレーター）：	40%
	シェブロン社：	25%

以上